学校評価書

総社市立総社小学校
校長　片岡　正喜
（公　印　省　略）

１　自己評価

１　心の教育の充実

①　道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。

・　毎月，品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。道徳教育推進教師が示す指導のポイントや内容項目の扱い等を参考に児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行ったり，道徳の授業公開を参観日等に行ったりすることにより道徳教育の充実に努めることができた。

・　６月の「いじめについて考える週間」や１２月の「校内人権週間」等を中心に人権標語や人権作文の作成に取り組むとともに「一人一人を大切に」を合い言葉に人権学習等に取り組むことができた 。

・　ピア・サポート，ＳＥＬを異学年（兄弟学年や縦割り班），同学年，異校種間（幼稚園，保育園，中学校，高校）での交流の場を意図的・計画的に設けることや縦割り班活動としての清掃や遊び等を通して思いやりの心を育むことができた。

「友達への優しさ」のアンケート結果は，児童 92%，保護者 93%，教職員 100%と基準を達成していた。

相手を尊重する気持ちを育てるために，授業中は「さん」を付けて呼べるように引き続き指導を続けていく。また，異学年へのピア・サポートを通して，児童は友達に対して優しくすることや優しくされることを経験している。

・　ピア・サポートの目的意識をしっかり持たせ，ＳＥＬの指導をしたり活動後の振り返りの充実を図ったりして，生活の中に広げていきたい。

②　「すきだ総社小学校運動」すすんで挨拶，きちんと整頓，だまって掃除を推進するとともに愛校心を育てる。

・　「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし，あいさつを毎月第一週の生活目標に掲げ，継続して指導を行うとともに総社小あいさつ目標「大きな声で，すすんで，顔を見て」の下に，計画委員会や５・６年生ボランティアによるあいさつ運動の取組を行った。また，地域の方に毎学期「あいさつボランティア」として児童を温かいあいさつで迎えていただいた。さらには，総社東中学校ブロックとしてもあいさつ運動を進めた。今年度も新たにあいさつ幟を作成し校門に設置したり，登校時に総社小学校を卒業した中学生が小学校を訪れ教職員や児童と一緒にあいさつ運動に取り組んだ。そうした取組の成果としてあいさつの進んでできる子が増えてきている。

「進んであいさつ」のアンケート結果は，児童 92%，保護者 80%，教職員 98%であった。

児童会中心の取組や日常の指導により，児童の意識は高まってきていると感じる。今

後は，「目的を考えた自発的な」レベルアップしたあいさつができるように指導していき，家庭や地域でも自然にあいさつができるようにしたい。

・　「き」きちんと整頓は，落ち着いた学習環境を整えることを重点に取り組んだ。教室の机やロッカーはもとより，特に心を整えることを目指して靴箱の靴の整頓に取り組んだ。靴の入れ方を示した写真を掲示し，学級で指導するとともにきちんと整頓された学年の靴箱を「ナイス靴箱」として賞賛した。その結果，ほとんどの学年で靴の整頓ができるようになった。

・　「だ」黙って掃除は，教職員はもとより，児童会が主体的となって「ピア・サポート週間」と「無言週間」を設けるとともにポスターを作成し，全校に呼び掛けた。また，放送で頑張っている班を称揚する取組を行ってきたところ縦割り清掃においては黙って掃除がほぼ徹底できるようになった。美しい新校舎を大切に守ることを通して愛校心を育てるとともに一生懸命掃除に取り組む児童を育てていきたい。

・　いじめ防止として自己肯定感の醸成のため児童誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつながりを強めたりする活動を設ける取組を行った。学習時に協同学習やグループ・ペア活動を積極的に取り入れたり，発表の機会を意図的に増やしたりすることで，授業の中で児童が活躍できたりつながりを強めたりする機会を設定した。また，計画的な縦割り活動（縦割り掃除やなかよし遊び等）やピア・サポート活動により，学年を超えた児童同士の関係づくりを進めることができた。

「活躍できる機会」のアンケート結果は，保護者 93%，教職員 100%であった。また，いじめはどこでも起こりうるというスタンスのもとに人権意識のアンテナを高くするとともに教育相談やアンケートにより早期発見に努め，全教職員で共通理解を図り，家庭や関係機関と連携しながら早期解決に努めてきた。

「いじめの実態把握アンケートがいじめの早期対応に役立っている」のアンケート結果は，教職員 97%であった。

学年で歩調を合わせて，各学級での協同学習や仲間づくりの活動を積極的に進めた結果，支持的風土ができてきたと感じている。不登校の児童が昨年度より減少している。児童それぞれのよい行いを教員や児童同士が見つける活動を積極的に行い，互いに認め合い励まし合う関係をつくり，児童の自己肯定感が高まるようにしていきたい。また，毎月の「こまったことアンケート」（いじめ実態把握アンケート）や年２回の教育相談でいじめやいじめにつながるケースを発見・対応でき，効果が実感できたので，引き続き取り組んでいきたい。

さらには，毎週金曜日に情報交換の機会を持ち，いじめ実態把握アンケートにより得た情報や気になる児童の様子等を全教職員で共通理解を今後も図っていきたい。

２　健康・体力づくり

③　健康教育・特別活動を充実することにより，児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。

・　今年度も基本的生活習慣の中で特に，重点として睡眠とメディアコントロールの２項目を取り上げ，総社東中学校の定期考査，夏季・冬季休業中の年５回「メディアコントロール週間」に取り組んだ。保健委員会による校内放送や早寝についてのアンケート，ＰＴＡ教育講演会では，メディアや睡眠専門の外部講師を招聘し講演会を行った。また，

校長室だより，学校保健委員会だより，保健だより等を発行して保護者の意識の啓発を行った。

「メディアのルールづくり」のアンケート結果は，児童 79%，保護者 77%，教職員 94%，早寝・睡眠のアンケート結果は児童 75%，保護者 80%であった。

年間５回のメディアコントロール週間を中心に，減メディアや早寝早起き，睡眠時間に関する取組や家庭への啓発に取り組んできたが，なかなか成果が現れていない。また，「睡眠」についての講演会を３～６年の児童と全保護者を対象に実施した。睡眠の乱れは，児童の学校生活に直結し，家庭との連携が欠かせない。メディアの危険性や睡眠の大切さについて，今後も引き続き指導していく。さらには，家庭との連携に向けて，メディアや睡眠について参観日の授業や懇談で取り上げる。

④　目標を持って主体的に体力作りに取り組み，最後まで粘り強く頑張る心を育てる。

・　校舎の改築工事の進行する環境の中ではあったが，運動会や体育の時間など，めあてを持って学習に取り組めるように単元計画を立てるとともに狭い空間と限られた時間の中で，可能な限り児童が体を動かすことができるよう工夫した。

「自分のめあてを持って運動している」のアンケート結果は，児童 88%，教職員 96%であった。

体育の授業では，めあてを持って運動できるような手立てを工夫してきた。運動委員会による「チャレンジランキング」の紹介により，長なわ跳びなど限られた場所を使って運動しているが，運動量の確保には至っていない。また，体力テストから「投げる力」と「握力」に特に課題がみられた。ドッジボールなどボールを投げる運動や遊具を使った運動を積極的に勧めていきたい。

来年度，新しくできる運動場を有効に使い，体力の向上を図るとともに，運動場の使い方や遊具の使い方を全教職員で共通理解して指導するようにする。

３　確かな学力の向上

⑤　児童が主体的・対話的で深い学びを実践し確かな学力を身に付けることができるように授業改善を行うとともに，朝学習や総小チャレンジの時間を有効活用し学力補充に取り組む。

・　今年度は，「だれもが行きたくなる学校づくり」のプログラムである協同学習，ＳＥＬ，ピア・サポート，品格教育・ＰＢＩＳを基本に立ち返って見直し，充実させることを目標に教育委員会から講師を招聘して実践研究を進めた。協同学習を教科の目標を達成するための有効な手段として効果的に取り入れた授業改善により，友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている。また，校内研究会を総社東中学校ブロックの学力向上研修として位置づけて開催し，他校からも多くの先生方が参加した。

・　朝学習の時間には基礎学力，「総小チャレンジタイム」には表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また，朝学習や「総小チャレンジタイム」には，学校支援ボランティアの協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果，４月に行われた６年生対象の全国学力学習状況調査では，平均正答率が全国平均を上回り，これまで

の取組の成果が見られた。

「学習意欲」のアンケート結果は，児童 88%，保護者 87%，教職員 100%，「授業の分かりやすさ」のアンケート結果は，児童 93%，保護者 88%，教職員 97%であった。

来年度は，デジタル教材や具体物等を活用し，より分かりやすい授業にしていきたい。また，主体的，対話的で深い学びに迫るために，効果的な協同学習を取り入れた授業づくりを研究していきたい。

「国語・算数の単元テストの正答率８割以上の児童が 80%以上」の結果は，教職員 57%にとどまった。

校内研究では，教員が一人一回の研究授業を行い，授業力の向上に努めた。授業の導入の仕方を工夫し，児童に問いを持たせることで主体的に取り組むようになっている。新学習指導要領の求める力について校内研修等で全教職員に理解を促し，さらなる授業改善を目指したい。基礎的な内容理解が不十分な児童には個別支援を行ってきたが，まだ十分な成果が出ていないため，今後は家庭との連携図りながら進めていく。

⑥　学習規律の徹底や教室内外の整頓に心掛け，落ち着いた学習環境をつくる。

・　通常学級における特別支援の視点を取り入れた学習環境づくりに取り組むとともに落ち着いた学習環境の要である授業規律についても総社東中学校ブロックで作成した下敷きや学習規律系統表を基に全職員で共通理解のもとに取り組むことができた。

・　「すきだ総社小学校運動」の「き」きちんと整頓を合い言葉に机やロッカーの整頓に心掛け，落ち着いたすっきりとした学習環境づくりに努めた。

⑦　総社東中学校ブロックの学校園と連携し，ノーメディアの取組を推進するとともに，家庭学習の定着を図る。

・　家庭学習については，「学年×10 分＋10 分」を目標に日々の家庭学習の内容や量を学年で共通理解し指導してきた。特に，自主学習の良い取組を「ナイスノート」として紹介して奨励してきた。「家庭学習」のアンケー結果は，児童 85%，保護者 77%，教職員 100%であった。

授業と家庭学習の関連付けを継続して行いたい。また，ナイスノートに限らず，家庭学習のよい取組を児童に伝えていくとともに懇談や通信で家庭学習のねらいや方法を伝えることで，保護者と連携を図ってきたいく。

4　開かれた学校づくり

⑧　各種の便り，ホームページの更新，学校評価，学校公開等により，積極的に情報を発信する。

・　校長室便り，学校便り，学年便り，学級便り，図書便り，保健便り，学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに，ホームページを更新し，学校からの情報発信に努めてきた。特に校舎改修工事関係は，校長室便りに掲載したりするなど保護者，地域への情報提供に努めた。また，学校行事や学習活動を積極的に公開し，保護者や地域の方々の理解と協力を得るように努めた。

「情報発信」のアンケート結果は，保護者 91%，教職員 84%であった。

総社東中学校区「きらめきＥＡＳＴ」として，「学びのたより」を年３回発行し，各校園の取組を発信している。各種の便りやホームページの更新により，学校の取組を知らせている。ホームページの更新が滞ることがあったので，タイムリーな発信を心掛けたい。本年度は年４回，参観日後の学級懇談を行った。参加者を増やす工夫をしていく。

⑨　きらめきＥＡＳＴの幼稚園，小・中学校や家庭・地域，関係機関との連携を深め，児童の健やかな成長を図る。

・　総社東中学校ブロックの幼稚園，小・中学校と連携し，確かな学力の向上を目指し，学びの基盤となる力の向上，教職員の授業力向上，教職員のチーム力向上の３本柱で様々な活動に取り組んだ。今年度の主な活動は，学習・生活規律系統表の一部改訂，東中学校の定期考査に合わせたメディアコントロール週間の取組，中学校教員による６年生への出前授業，校種を超えたピア・サポート活動，幼小・小中の情報共有，夏期合同研修会の開催，東中オープンスクール等である。今後も，東中学校ブロックの幼稚園，小中学校とさらに連携を深め１２年間を見通した取組を進め，児童の健やかな成長を促していきたい。

・　学校だけでは解決するのが困難な事案については，その都度ケース会議を開催し，スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルパートナー（ＳＳＰ），こども課，中学校のＳＳＣ等専門家の意見を参考に対応してきた。

・　登下校時の児童の安全を各地域の「たすきボランティア」が見守ってくださっている。地域づくり協議会の全面的な協力もあり，登録者が増え見守り体制が整ってきている。

登下校以外にも，あいさつボランティア，学習ボランティア等学校ボランティアに登録してくださる保護者・地域の方が増加している。

「登下校の安全」のアンケート結果は，保護者 95%，教職員 98%で基準を達成した。

学校支援ボランティア（たすきボランティア）と協力して登下校の安全の確保に努め，工事による通学路の変更にも対応できた。また，ボランティアや地域の方からの情報提供を受け，速やかな児童の指導や対応に努めた。児童は新校舎での生活に慣れてきて，ルールも理解してきた。ルールを守って気持ちよく生活できるように引き続き指導したい。

２　学校関係者評価者名

井上　憲司	（有識者）	萱原　　潤	（地域住民）
藤井　瞳	（川崎医療福祉大学）	三宅　啓介	（ＰＴＡ会長）
平松　桂子	（主任児童委員）	加古川　聡	（ＰＴＡ副会長）
宮本　由里子	（地域住民）	秋山　由美子	（ＰＴＡ副会長）

３　学校関係者評価

１　心の教育の充実

「すきだ総社小学校運動」「ピア・サポート活動」「いじめの実態把握アンケート（こまったことアンケート）」といった特色ある取組は，学校の中で定着し，成果もあげている。学校外での生活の場面でも成果が発揮できるよう，家庭・地域と連携し，来年度も引き続き継続してほしい。

2　健康・体力づくり

メディアコントロールについては，数字として結果がなかなか出ていないところではあるが，児童たちが成長し中学生になったときに成果が出るのではないか。家庭と連携し，長期的展望を持って継続して取り組んでほしい。

工事中の狭い運動場の中で，出来る限りの運動ができているのではないだろうか。新しく整備された運動場でのより一層の取組を期待するとともに，ケガをする児童がなるべく出ないよう，運動場の使い方を工夫してほしい。

3　確かな学力の向上

授業を参観していても，各先生方の授業づくりの工夫が見られる。さらなる授業力向上を目指し取組を継続してほしい。

基礎的な内容理解が不十分な児童に対する個別支援については，現行の支援体制では限界もあるのではないだろうか。体制を充実させるため，支援員の増加等も市へ要望していただきたい。

4　開かれた学校づくり

先生方には「児童と向き合う時間の確保」を大切にしていただいたうえで，今後も学校としての情報発信を行っていただきたい。

情報発信を行う上では，「受け手である保護者がどういった情報を欲しているのか」という情報収集も必要だと考える。今後は，学級懇談等の対面での対話の機会を利用し情報収集にも努めていただきたい。

学校支援ボランティア（たすきボランティア）と協力した見守り体制ができている。今後も継続してほしい。

「子ども 110 番の家」，学校支援ボランティア，学習支援ボランティア等は，登録数と稼働数が一致していない。そのため，組織としてどういった体制で動いているのか，現在も「子ども 110 番の家」として利用できる家はどこなのか等，実態が分かりにくい。開かれた学校づくりを進め，児童の安全を守るためにも実態把握に努めてほしい。

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題，学校関係者評価等をふまえて，学校経営目標を本年度より高いレベルで実現することを目指して，来年度も同様の学校経営目標を設定する。